RasterLink8

エミュレーションツールガイド

株式会社ミマキエンジニアリング
https://japan.mimaki.com/

D204022-11

目次

ご注意 5
この説明書について 6
本文中の表記について 6
マークについて 6
本書および関連説明書の入手方法 6

第 1 章 概要

1.1 動作環境 8
1.2 用語説明 9
1.3 エミュレーションとは 10
エミュレーションの対象 10

第 2 章 ご使用の前に

2.1 測色器の設定 12
2.2 お気に入りの設定 13

第 3 章 エミュレーションの手順

3.1 エミュレーションの流れ 16
3.2 エミュレーションプロファイルの新規作成 17
エミュレーションツールの起動 17
画面の説明 17
エミュレート条件の選択 18
ターゲット情報の作成 18
エミュレーションプロファイルの作成 21
結果の確認 23
3.3 エミュレーションプロファイルの調整 26
画面の説明 26
エミュレート条件の選択 27
エミュレーションプロファイルの選択 27
調整 28
結果の確認 28
3.4 RGBエミュレーション情報の追加 31
画面の説明 31
エミュレート条件の選択 32
エミュレーションプロファイルの選択 32
ターゲット情報の作成 32
RGBエミュレーション情報の作成 35
結果の確認 37
3.5 RasterLink8での使用 40
エミュレーションプロファイルを選択する 40

第 4 章 困ったときは

4.1 Q&A 44
基本 44
MimakiProfileMaster3（MPM3）との違い 44
4.2 こんなときは 46
チャート画像の測色中に測色エラーが多く発生する/エミュレーション後の色差が行う前よりも大きい 46
4.3 メッセージの対処方法 47

本書では、Mimaki RasterLink8(以降RasterLink8) エミュレーションツールのインストールと設定、使用方法について説明します。

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写したりすることは固くお断りします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更などにより、仕様面において本書の記載事項が一部異なる場合があります。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行したりする以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）などの損失、メディアを使用して作成された物によって生じた、間接的な損失などの責任負担もしないものとします。

RasterLinkは株式会社ミマキエンジニアリングの日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows 8.1、Windows 10、Windows 11は、Microsoft Corporationの米国ならびにその他の国での登録商標、または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

この説明書について

本文中の表記について

- 画面に表示されるボタンや項目は、[OK]、[ファイルを開く]のように[ ]で囲っています。

マークについて

		内容
重要!	重要	「重要」マークは、本ツールをお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。
	一般強制指示	実行しなければならない事項を示しています。
	ヒント	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。
	参照情報	関連する内容の参照ページを示しています。文字をクリックすると該当ページが表示されます。

本書および関連説明書の入手方法

本書および関連する説明書の最新版は、以下の方法で提供しています。

- 弊社公式サイト（https://japan.mimaki.com/download/software.html）

第 1 章　概要



この章では...
エミュレーションツールの概要について説明します。

動作環境 8
用語説明 9
エミュレーションとは 10
エミュレーションの対象 10

1.1 動作環境

RasterLink8本体に準拠します。詳しくはRasterLink8のインストールガイドをご覧ください。

● 対応するRasterLink8のバージョン

RasterLink8 v.1.0.0以降

● 対応測色器

RasterLink8上での表示名	対象測色器	メーカー	備考
i1Pro	i1Pro/i1Pro2	X-Rite	
i1iO	i1iO2	X-Rite	*1
i1Pro3	i1Pro3	X-Rite	
i1Pro3 PLUS	i1Pro3 PLUS	X-Rite	
i1iO3 with i1Pro3	i1iO3(i1Pro3接続時)	X-Rite	*1
i1iO3 with i1Pro3 PLUS	i1iO3(i1Pro3 PLUS接続時)	X-Rite	*1
SpectroLFP	SpectroLFP	Barbieri	

*1. エミュレーションツールでのみ使用できます。測色色置換では使用できません。

測色器の選択方法については☞「測色器の設定」（P. 12）をご覧ください。

● 対応インクセット

No.	インクセット	対応/非対応
1	CMYK	対応
2	CMYKLcLm	対応
3	BMYK	対応
4	BMYKLbLm	対応
5	BMYKLbLmLk	対応
6	CMYKOr	対応
7	CMYKLkOr	対応
8	CMYKLcLmLkOr	対応
9	CMYKOrVi	非対応
10	CMYKFyFp	非対応
11	CMYKOrViFyFp	非対応
12	BMYKViOr	非対応
13	BMYKFyFp	非対応
14	BMYKViOrFyFp	非対応
15	BMYKLbLmFyFp	非対応
16	BMYKLbLmViOr	非対応

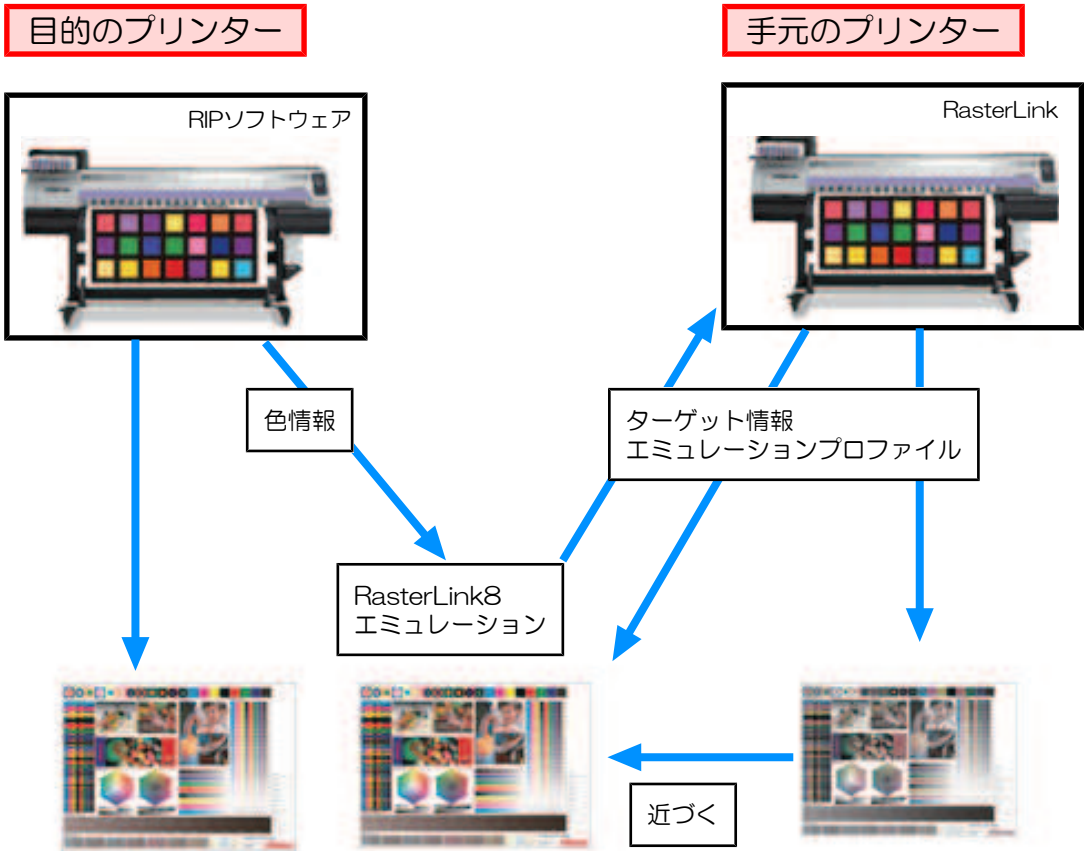
1.2 用語説明

用語	説明
測色	測色器を使用して色を測定すること。
測色値	測色した結果を数値として表したもの。RasterLinkシリーズでは主にL*a*b*表色系を用いて表す。
チャート画像	測色するカラーパッチが並んだ画像。 使用する測色器ごとにサイズ、レイアウトが異なる。
測色値ファイル	チャート画像を測色した結果を記載したファイル。
色差	2つの色の差を数値で表したもの。 色差の計算方法には複数あり、本ツールでは以下の2つの値を表示する。 ⊿E、⊿E2000
MimakiProfileMaster3（MPM3）	弊社製カラーマネージメントソフトウェア。 RasterLinkシリーズ用のデバイスプロファイルの作成およびエミュレーションを含む各種色合わせ機能を搭載。

1.3 エミュレーションとは

インクジェットプリンターは、インクジェットヘッドの交換やインクジェットノズルの経時変化、周囲環境の変化で色が変わることがあります。

エミュレーションとは、インク濃度を測色により自動調整することで、基準として設定した色（＝基準色）に近づけてプリントできる機能です。



重要！ • 色差計算は D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果になりません。見た目と数値の差はご了承ください。

エミュレーションの対象

RasterLink8のエミュレーションは、登録プリンターとデバイスプロファイルごとに作成します。そのため、同じ機種であっても、別の登録プリンターで作成したエミュレーションデータを使用できません。これは、エミュレーションデータが個体の情報を元に作成されるためです。

エミュレーションデータ作成時に、デバイスとお気に入りを選択☞「お気に入りの設定」（P. 13）します。ジョブに適用する際は、ジョブ作成時に使用したお気に入りに関係なく、登録プリンターで同じデバイスプロファイルを選択していれば使用できます。

第 2 章　ご使用の前に



この章では...

エミュレーションツールをご使用の前にやっておかなければならないことを説明します。

測色器の設定.....12　お気に入りの設定.....13

2.1 測色器の設定

- RasterLink8インストール時に、測色器のドライバーはインストールされません。そのため、使用する測色器のドライバーを別途インストールしてください。

1 **RasterLink8のメニューから[環境設定] - [オプション...]を選択します。**

2 **[測色器]タブを選択して[測色器設定]をクリックします。**

- [設定]画面が表示されます。

3 **[測色器]リストで使用する測色器を選択します。**

- [接続確認]をクリックすると測色器と正常に接続しているかを確認できます。

4 **[設定]画面で[OK]をクリックします。**

- 測色器が設定されます。

2.2 お気に入りの設定

エミュレーションツールは、［お気に入り］機能を用いて、対象となるデバイスプロファイルの指定と、チャート出力時の条件を決定します。

エミュレーションツールを起動する前に、エミュレーションで使用するお気に入りを設定します。

お気に入りの設定方法の詳細についてはRasterLink8のリファレンスガイドをご覧ください。

ここでは各画面ごとに特に重要な設定について記載します。

● [プロパティ］画面

- [ジョブ属性]で“単色印刷”を選択しないでください。設定した場合、チャート画像が単色印刷されます。

● ［印刷条件］画面

エミュレーションするデバイスプロファイルを指定してください。

<u>エミュレーションできないデバイスプロファイル</u>

以下のデバイスプロファイルはエミュレーションできません。

- デバイスプロファイルの［種類］が“メタリック”のもの
- 特殊な用途(下地クリア用等)のデバイスプロファイル
- プロファイルバージョンv3.4以下のデバイスプロファイル
- MPM3で作成した“エミュレーション”、”イコライゼーション”データを持つデバイスプロファイル（詳しくはMPM3のリファレンスガイドをご覧ください。）

● ［通常印刷］画面

- [スケール]を100%以外に設定している場合でも、チャート画像は必ず100%でプリントされます。
- この画面で設定した値がチャートプリント時の[ミラー], [回転]の初期値になります。転写や透明メディアを使用するなど、画像をミラー出力する必要がある場合は、間違いを防ぐために[ミラー]を”ON”にしてください。チャートのプリント

● ［版作成］画面

- 透明メディアや特殊メディア等でホワイト版をプリントする場合、[版作成]の設定を行ってください。この時、[特色領域]で必ず“画像全体”を選択してください。

● ホットフォルダーの設定

- チャート印刷時、お気に入りに設定したホットフォルダーを使用します。ホットフォルダーが作成されていない場合は作成してください。

第 3 章　エミュレーションの手順



この章では...
エミュレーションの手順を説明します。

エミュレーションの流れ 16
エミュレーションプロファイルの新規作成 17
　エミュレーションツールの起動 17
　画面の説明 17
　エミュレート条件の選択 18
　ターゲット情報の作成 18
　エミュレーションプロファイルの作成 21
　結果の確認 23
エミュレーションプロファイルの調整 26
　画面の説明 26
　エミュレート条件の選択 27
　エミュレーションプロファイルの選択 27
　調整 28
　結果の確認 28
RGBエミュレーション情報の追加 31
　画面の説明 31
　エミュレート条件の選択 32
　エミュレーションプロファイルの選択 32
　ターゲット情報の作成 32
　RGBエミュレーション情報の作成 35
　結果の確認 37
RasterLink8での使用 40
　エミュレーションプロファイルを選択する 40

3.1 エミュレーションの流れ

1. エミュレーションツールを起動する

☞「エミュレーションツールの起動」（P. 17）

2. エミュレート条件を選択する

☞「エミュレート条件の選択」（P. 18）

- プリンターとお気に入りを選択します。

3. ターゲット情報を作成する

☞「ターゲット情報の作成」（P. 18）

次の3つの操作で構成されます。

- チャート画像ファイルを保存する
- ターゲット環境でチャート画像ファイルを印刷する
- 印刷したチャート画像を測色する

4. エミュレーションプロファイルを作成する

☞「エミュレーションプロファイルの作成」（P. 21）

次の2つの操作で構成されます。

- チャート画像ファイルをRasterLink8で印刷する

  RasterLink8のジョブ一覧にチャート画像ファイルが追加されるので、印刷を実行します。
- 印刷したチャート画像を測色する

  測色後、自動でエミュレーションプロファイルが作成され、RasterLink8にインストールされます。

5. エミュレーション結果を確認する

☞「結果の確認」（P. 23）

次の2つの操作で構成されます。

- チャート画像ファイルをRasterLink8で印刷する

  RasterLink8のジョブ一覧にチャート画像ファイルが追加されるので、印刷を実行します。
- 印刷したチャート画像を測色する

  測色後、ターゲットとの色差が画面に表示されます。

3.2 エミュレーションプロファイルの新規作成

エミュレーションツールを使用して新規にエミュレーションプロファイルを作成する手順を説明します。

エミュレーションツールの起動

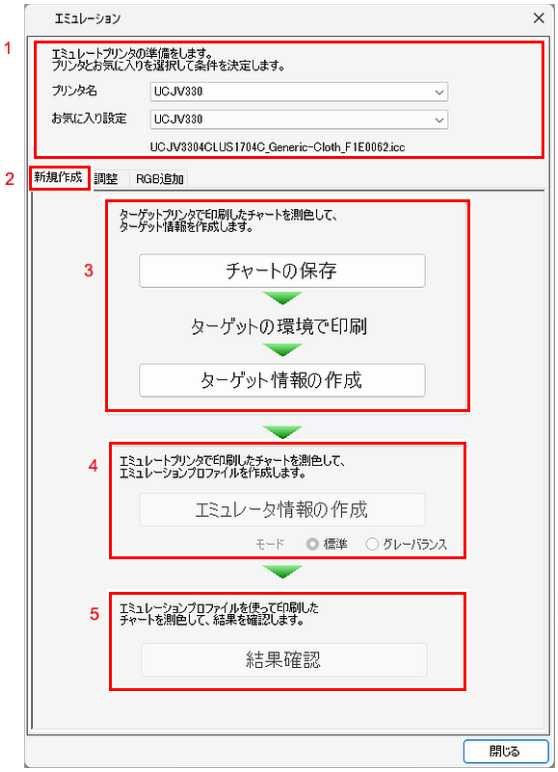
RasterLink8のメニューから[ツール] - [エミュレーション]を選択します。

- エミュレーションツールが起動します。

エミュレーションツール起動中に、RasterLink8本体で以下の操作を行わないでください。エミュレーションの処理が正しく行われなくなります。
- RasterLink8を終了する。
- エミュレーションの対象となるお気に入りの設定を変更する。

画面の説明

メイン画面に表示されている設定・操作項目を、画面の上から下へ順に操作することで、エミュレーションプロファイルの新規作成を進めます。画面内の番号は、以下の流れの番号に対応します。



No.	設定	参考
1	エミュレート条件を選択する	☞ P. 18
2	新規作成タブを選択する	☞ P. 18
3	ターゲット情報を作成する	☞ P. 18
4	エミュレーションプロファイルを作成する	☞ P. 21
5	エミュレーション結果を確認する	☞ P. 23

エミュレート条件の選択

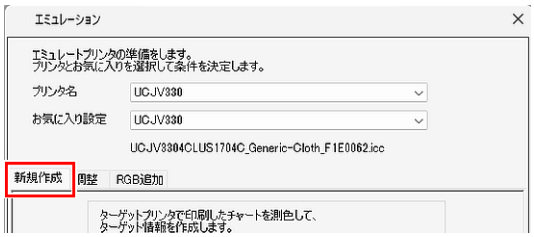
1 以下の条件を選択し、エミュレート条件を決定します。

- プリンター
- お気に入り



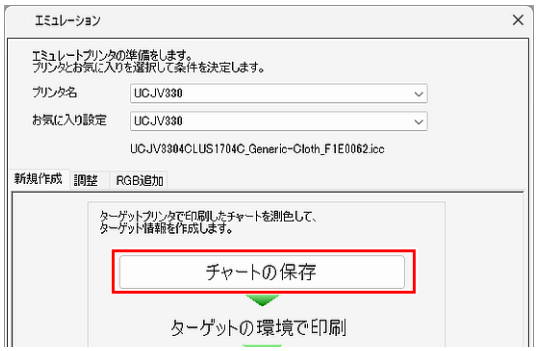
- お気に入りに設定されているデバイスプロファイル名が画面に表示されます。

2 [新規作成]タブを選択します。



ターゲット情報の作成

1 エミュレーションのメイン画面で[チャートの保存]をクリックします。



- [チャートの保存]画面が表示されます。

2 [参照]をクリックします。



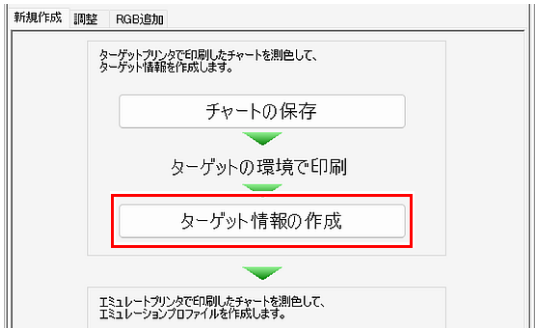
- フォルダー選択ダイアログが表示されるので、保存先フォルダーを選択します。

3 [保存]をクリックします。



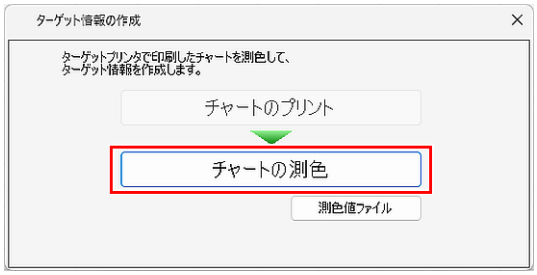
- チャート画像ファイルがPDF形式で保存されます。
- ターゲットのプリンターでチャート画像ファイルを印刷します。
- [チャートの保存]画面が閉じます。

4 エミュレーションのメイン画面で[ターゲット情報の作成]をクリックします。



- [ターゲット情報の作成]画面が表示されます。

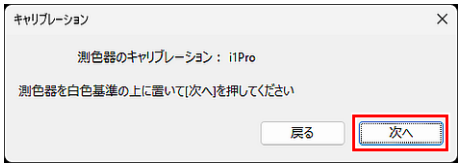
5 [チャートの測色]をクリックします。



- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

6 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。



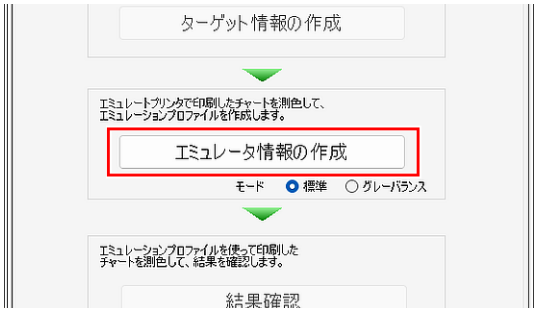
7 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



- チャート画像は、選択した測色器によって異なります。本マニュアルのチャートイメージは一例です。
- 測色が終了すると、ターゲット情報が自動的に作成されます。

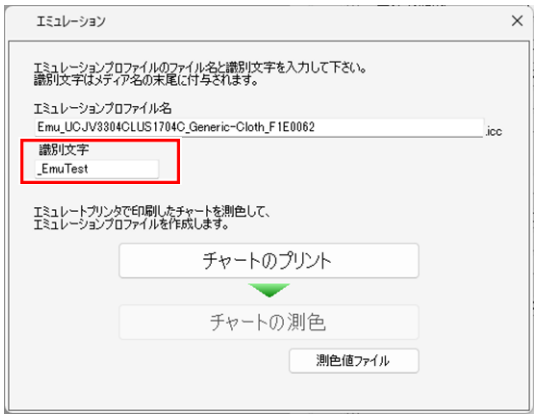
エミュレーションプロファイルの作成

1 エミュレーションのメイン画面で[エミュレータ情報の作成]をクリックします。



- [エミュレーション]画面が表示されます。

2 元のデバイスプロファイルとエミュレーションプロファイルを区別するため、識別文字を入力します。

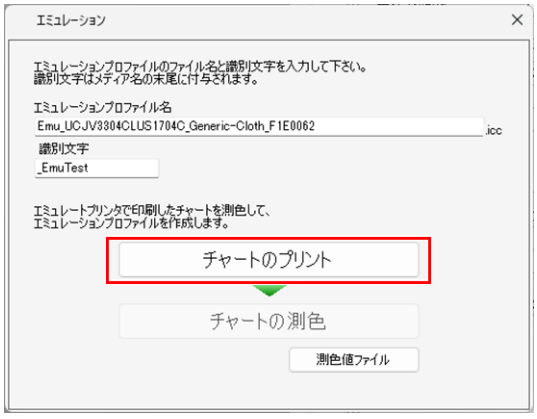


識別文字は、デバイスプロファイルのファイル名に自動で付加され、元のデバイスプロファイルとは別のプロファイルとして管理されます。また、メディア名にも識別子が自動で付加されます。RasterLink8の[印刷条件]画面で、デバイスプロファイル名またはメディア名からエミュレーションプロファイルを確認できます。

モード

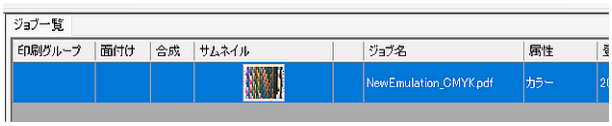
- 標準：ICCカラーを使ってエミュレーションします。
- グレーバランス：グレーバランスカラーを使ってエミュレーションします。

3 [チャートのプリント]をクリックします。



- チャート画像ファイルがRasterLink8のジョブとして入力されます。

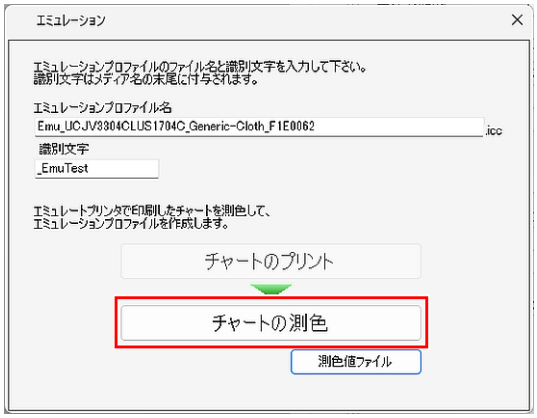
4 RasterLink8の[ ]（実行）アイコンを選択し、[開始]をクリックします。



- チャート画像が印刷されます。

- チャート画像は、回転やレイアウトを変更してから印刷できます。ただし、チャート画像をスケールすると測色できなくなるため、スケールしないでください。

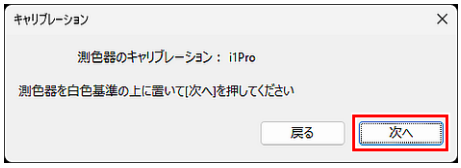
5 [チャートの測色]をクリックします。



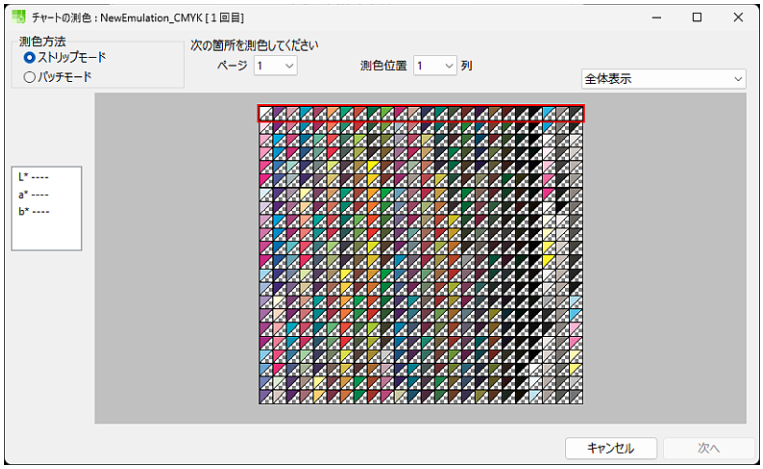
- 測色器のキャリブレーションダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

6 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。

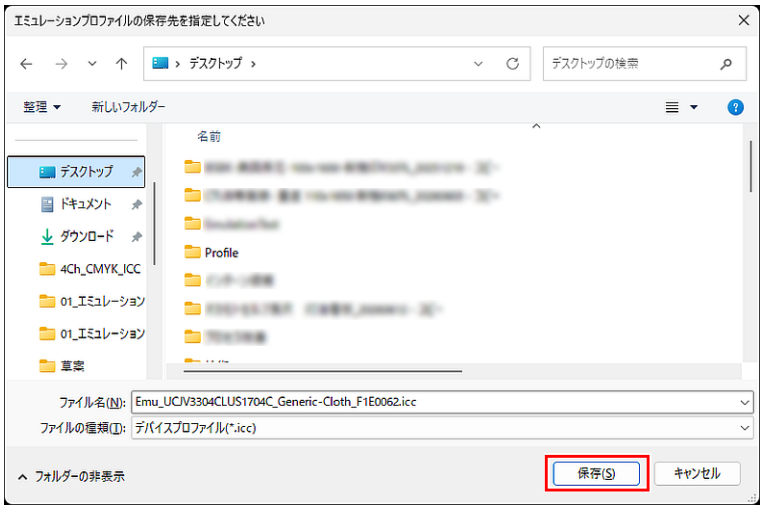


7 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



- 測色完了後、自動でエミュレーションプロファイルが作成されます。

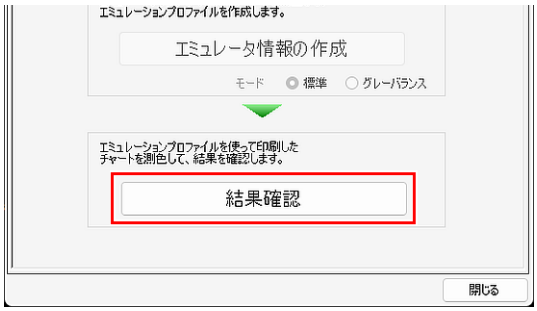
8 エミュレーションプロファイルの保存先フォルダーを選択し、[保存]をクリックします。



- 保存後、エミュレーションプロファイルは自動でRasterLink8にインストールされます。

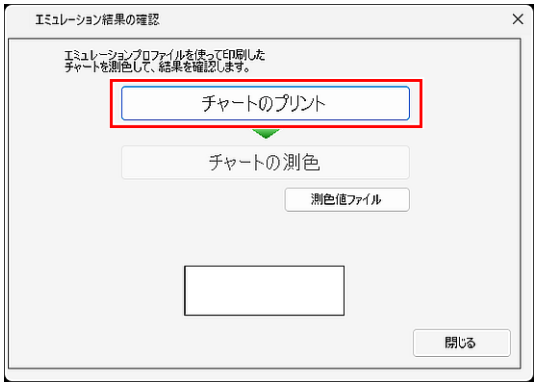
結果の確認

1 エミュレーションのメイン画面で[結果確認]をクリックします。



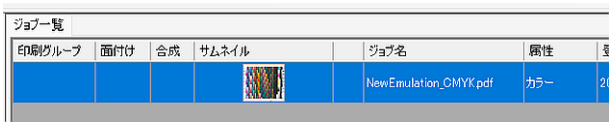
- [エミュレーション結果の確認]画面が表示されます。

2 [チャートのプリント]をクリックします。



- チャート画像ファイルがRasterLink8のジョブとして入力されます。

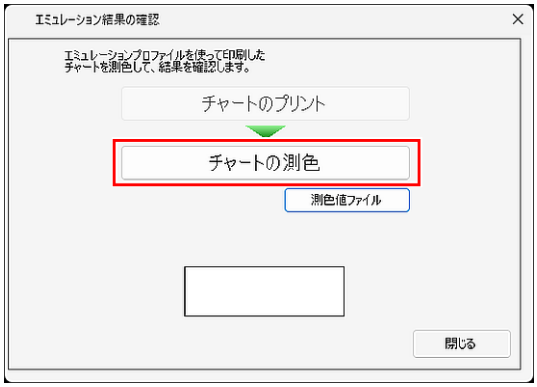
3 RasterLink8の[ ]（実行）アイコンを選択し、[開始]をクリックします。



- チャート画像が印刷されます。

- チャート画像は、回転やレイアウトを変更してから印刷できます。ただし、チャート画像をスケールすると測色できなくなるため、スケールしないでください。

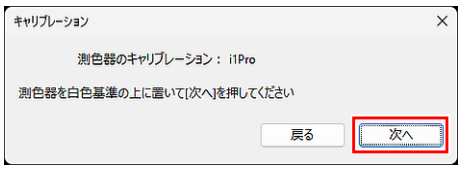
4 [チャートの測色]をクリックします。



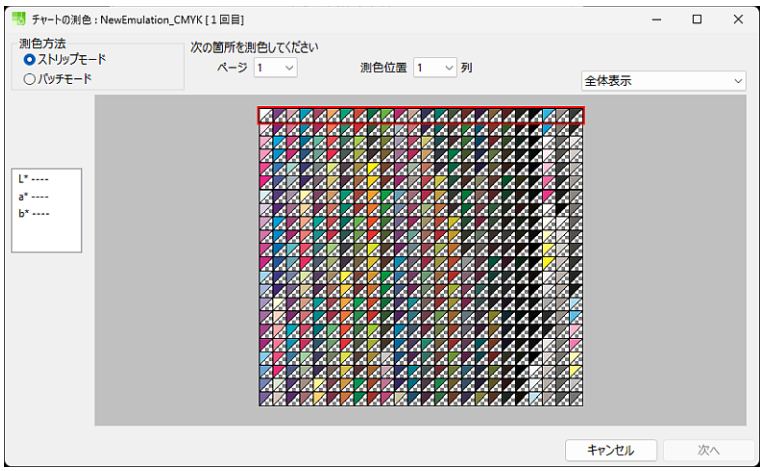
- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

5 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。

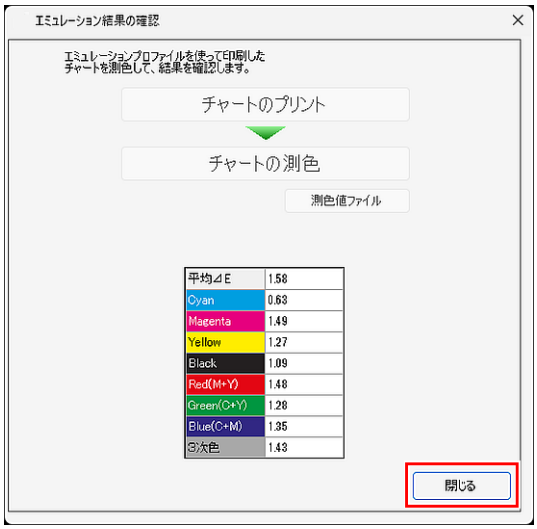


6 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



- ターゲットとの色差の情報が画面に表示されます。

7 色差を確認し、[閉じる]をクリックします。



3.3 エミュレーションプロファイルの調整

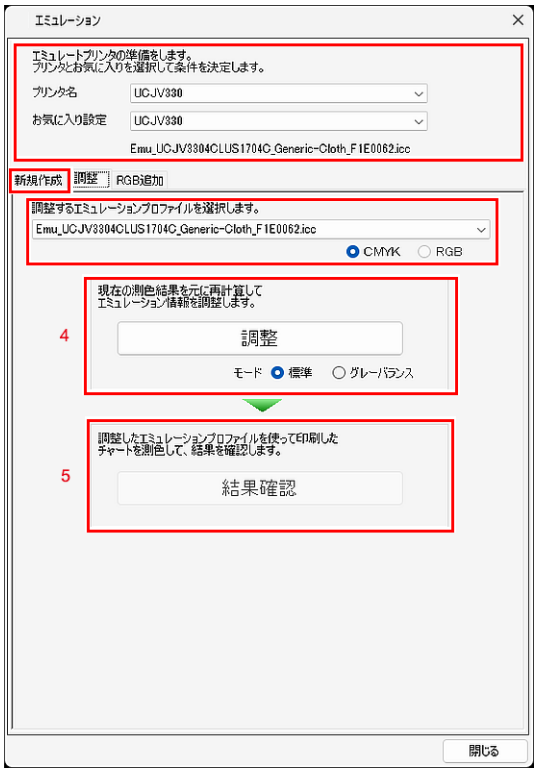
エミュレーションプロファイルの調整手順を説明します。

作成したエミュレーションプロファイルを、作成時の測色情報をもとに再計算し、調整します。

重要！ ・ この調整では、色合わせの計算範囲を変更せずに計算の粒度を小さくして再計算します。ただし、新規作成時よりも必ず精度が向上するとは限りません。

画面の説明

メイン画面に表示されている設定・操作項目を、画面の上から下へ順に操作することで、エミュレーションプロファイルの調整を進めます。画面内の番号は、以下の流れの番号に対応します。



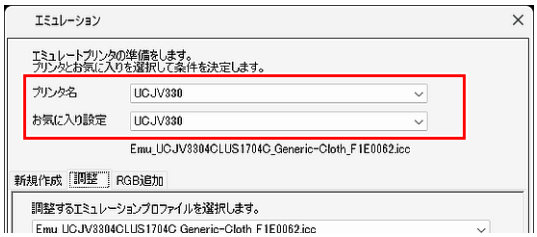
No.	設定	参考
1	エミュレート条件を選択する	☞ P. 27
2	調整タブを選択する	☞ P. 27
3	エミュレーションプロファイルを選択する	☞ P. 27
4	エミュレーションプロファイルを調整する	☞ P. 28
5	フィードバック結果を確認する	☞ P. 28

エミュレート条件の選択

エミュレート条件を選択します。

1 **以下の条件を選択し、エミュレート条件を決定します。**

- プリンター
- お気に入り



- お気に入りに設定されているデバイスプロファイル名が画面に表示されます。

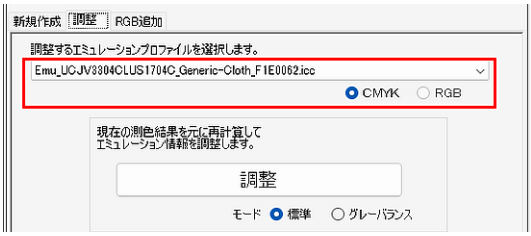
2 **[調整]タブを選択します。**



エミュレーションプロファイルの選択

エミュレーションプロファイルを選択します。

1 **エミュレーションプロファイルを選択します。**



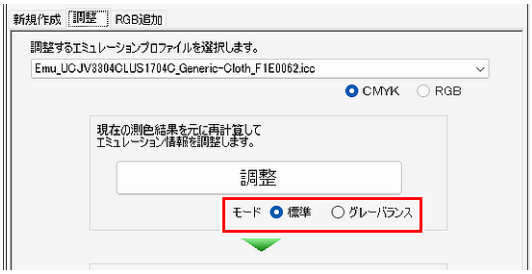
- エミュレーションプロファイルを新規作成した場合は、CMYKモードのみ調整できます。RGBエミュレーション情報が追加されたエミュレーションプロファイルを選択した場合は、CMYKとRGBのどちらを調整するかを選択します。

調整

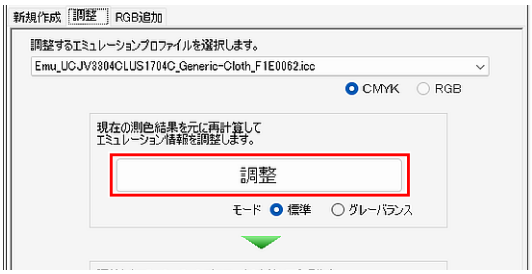
調整するモードを選択し、再計算を実行します。

1 **調整するモードを選択します。**

- 標準：ICCカラーを使ってエミュレーションします。
- グレーバランス：グレーバランスカラーを使ってエミュレーションします。



2 **エミュレーションのメイン画面で [調整]をクリックします。**

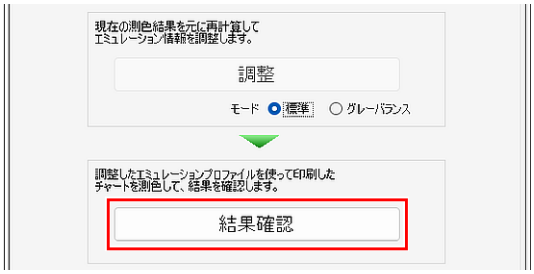


- 再計算が開始されます。

結果の確認

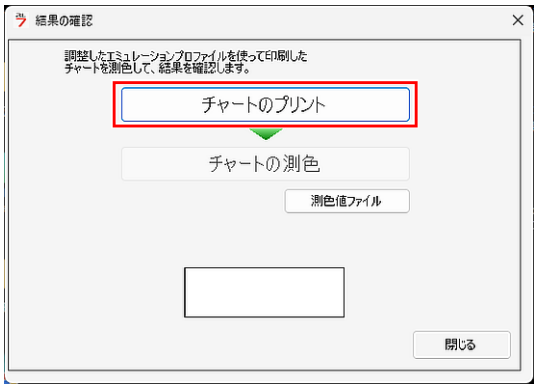
調整結果を確認します。

1 **エミュレーションのメイン画面で [結果確認]をクリックします。**



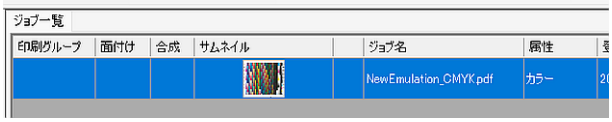
- 結果の確認画面が表示されます。

2 [チャートのプリント]をクリックします。



- チャート画像ファイルは、RasterLink8のジョブとして入力されます。

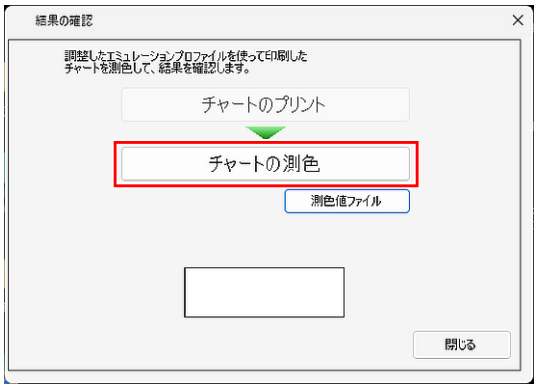
3 RasterLink8の[ ]（実行）アイコンを選択し、[開始]をクリックします。



- チャート画像が印刷されます。

- チャート画像は、回転やレイアウトを変更してから印刷できます。ただし、チャート画像をスケールすると測色できなくなるため、スケールしないでください。

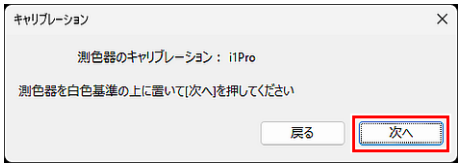
4 [チャートの測色]をクリックします。



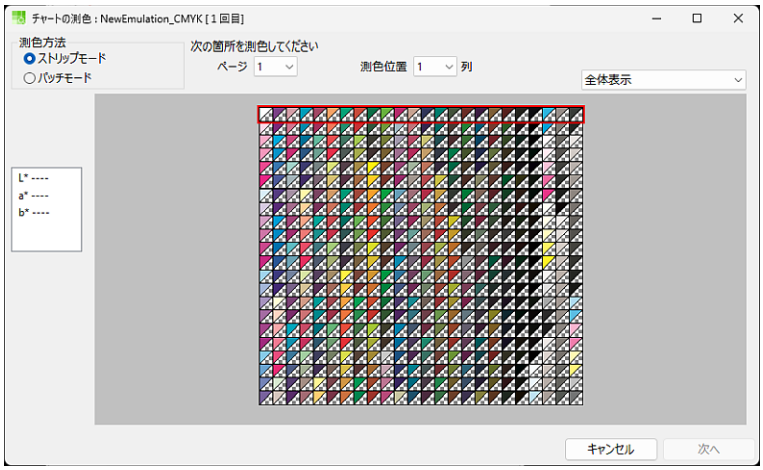
- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

5 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。

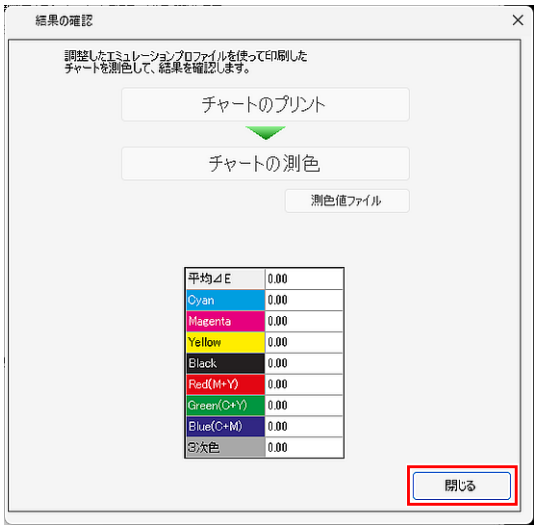


6 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



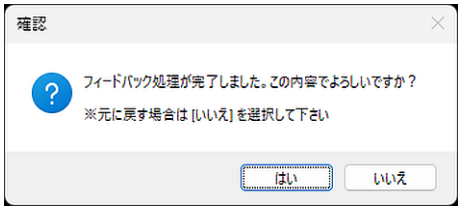
- ターゲットとの色差の情報が画面に表示されます。

7 色差を確認し、[閉じる]をクリックします。



8 エミュレーションプロファイルにフィードバック結果を適用するかどうかを判断します。

- はい：エミュレーションプロファイルに調整結果が適用され、更新されます。
- いいえ：エミュレーションプロファイルは更新されません。



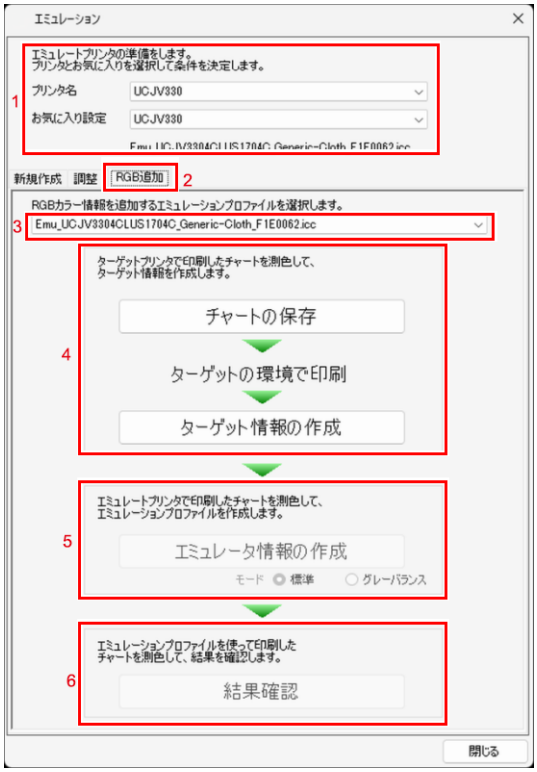
3.4 RGBエミュレーション情報の追加

作成済みのエミュレーションプロファイルにRGBのエミュレーション情報を追加する手順を説明します。

重要！
- RGBエミュレーションプロファイルを新規に作成することはできません。RGBエミュレーション情報を追加するには、作成済みのエミュレーションプロファイル（CMYK）が必ず必要です。

画面の説明

メイン画面に表示されている設定と作業を上から下へ順に操作すると、RGB追加の手順を順に進められます。画面内の番号は、以下の流れの番号に対応します。



No.	設定	参考
1	エミュレート条件を選択する	☞ P. 32
2	RGB追加タブを選択する	☞ P. 32
3	エミュレーションプロファイルを選択する	☞ P. 32
4	ターゲット情報を作成する	☞ P. 32
5	RGBエミュレーション情報を作成する	☞ P. 35
6	エミュレーション結果を確認する	☞ P. 37

エミュレート条件の選択

エミュレート条件を選択します。

1 以下の条件を選択し、エミュレート条件を決定します。
- プリンター
- お気に入り



- お気に入りに設定されているデバイスプロファイル名が画面に表示されます。

2 [RGB追加]タブを選択します。



エミュレーションプロファイルの選択

エミュレーションプロファイルを選択します。

1 エミュレーションプロファイルを選択します。



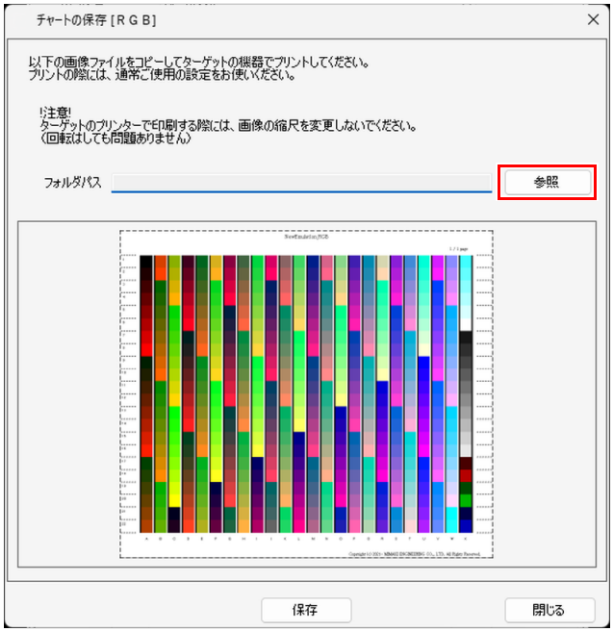
ターゲット情報の作成

1 エミュレーションのメイン画面で[チャートの保存]をクリックします。



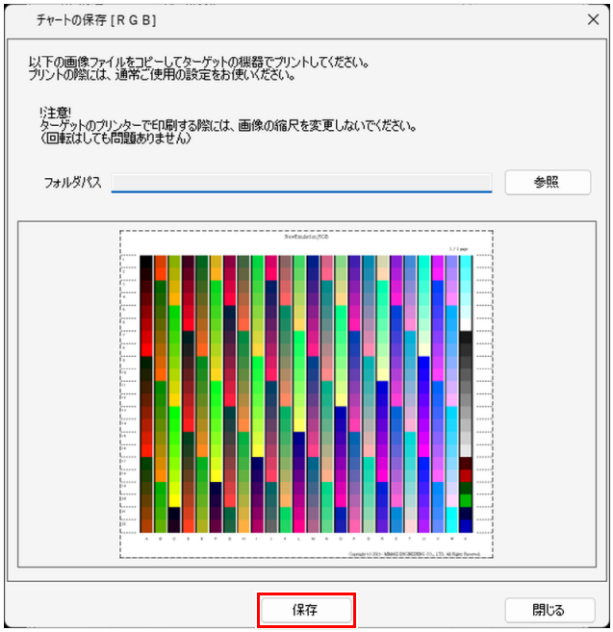
- [チャートの保存]画面が表示されます。

2 [参照]をクリックします。



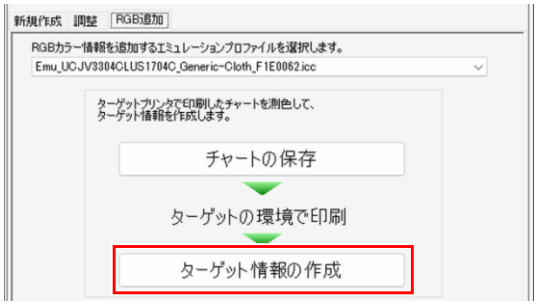
- フォルダー選択ダイアログが表示されるので、保存先フォルダーを選択します。

3 [保存]をクリックします。



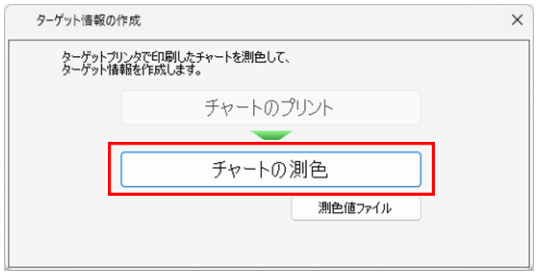
- チャート画像ファイルがPDF形式で保存されます。
- ターゲットのプリンターでチャート画像ファイルを印刷します。
- [チャートの保存]画面が閉じます。

4 エミュレーションのメイン画面で[ターゲット情報の作成]をクリックします。



- [ターゲット情報の作成]画面が表示されます。

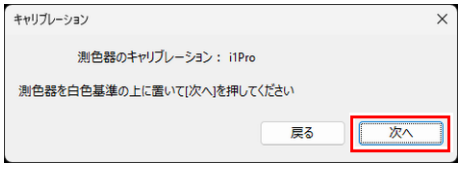
5 [チャートの測色]をクリックします。



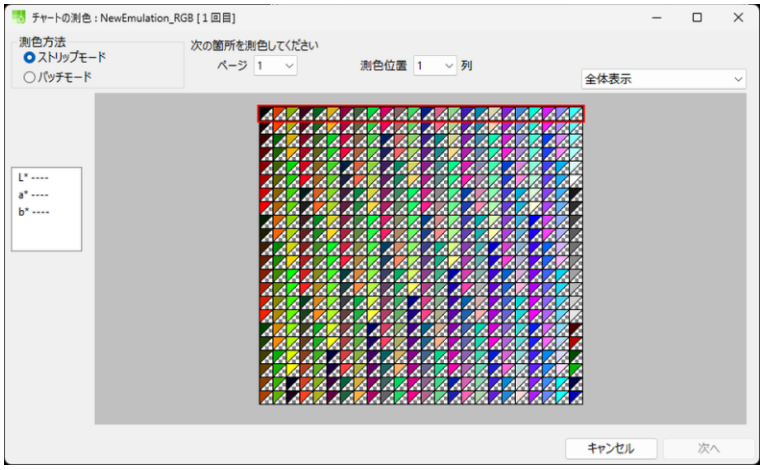
- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

6 画面の指示に従って測色機の準備を実施し、[次へ]をクリックします。

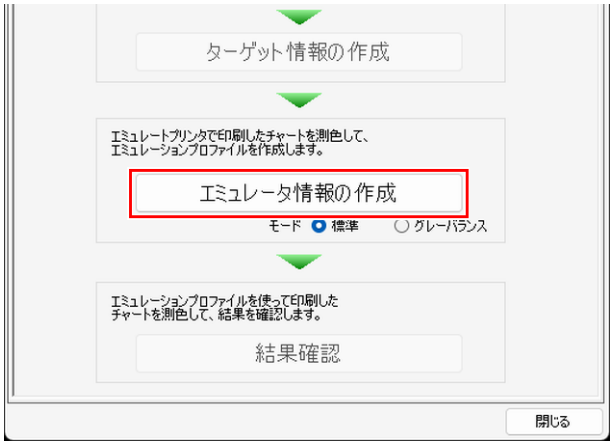


7 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



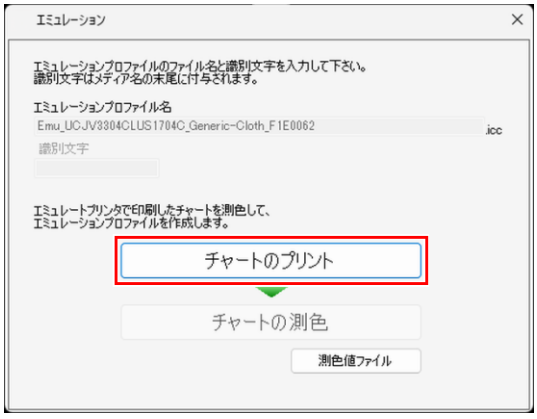
RGBエミュレーション情報の作成

1 エミュレーションのメイン画面で[エミュレータ情報の作成]をクリックします。



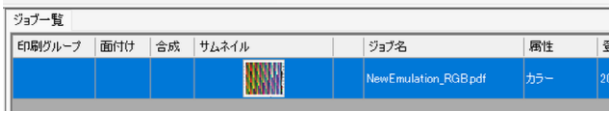
- [エミュレーション]画面が表示されます。

2 [チャートのプリント]をクリックします。



- チャート画像ファイルがRasterLink8のジョブとして入力されます。

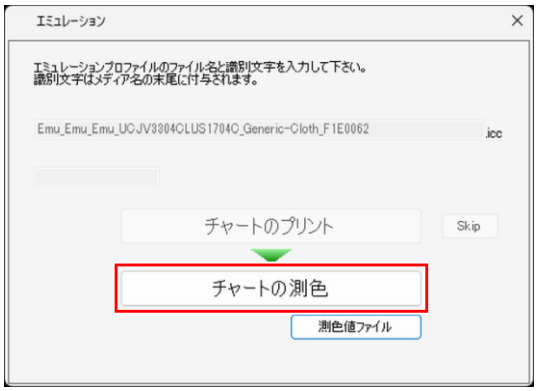
3 RasterLink8の[ ]（実行）アイコンを選択し、[開始]をクリックします。



- チャート画像が印刷されます。

- チャート画像は、回転やレイアウトを変更してから印刷できます。ただし、チャート画像をスケールすると測色できなくなるため、スケールしないでください。

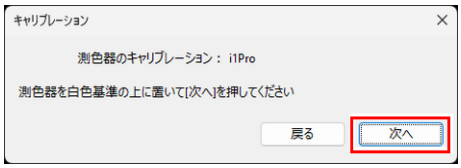
4 [チャートの測色]をクリックします。



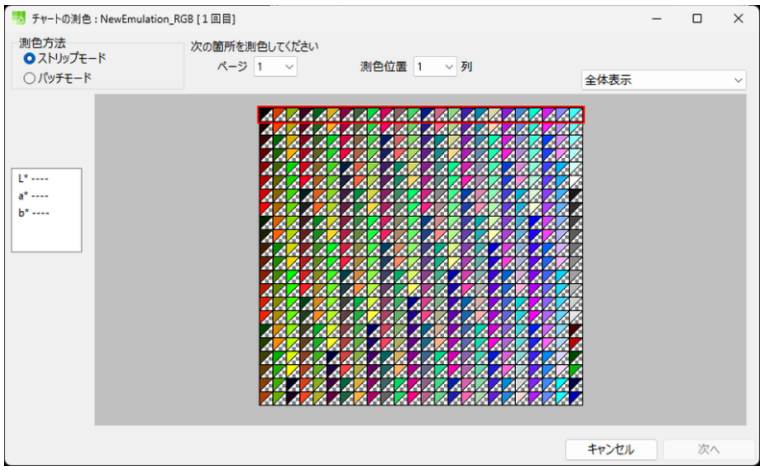
- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

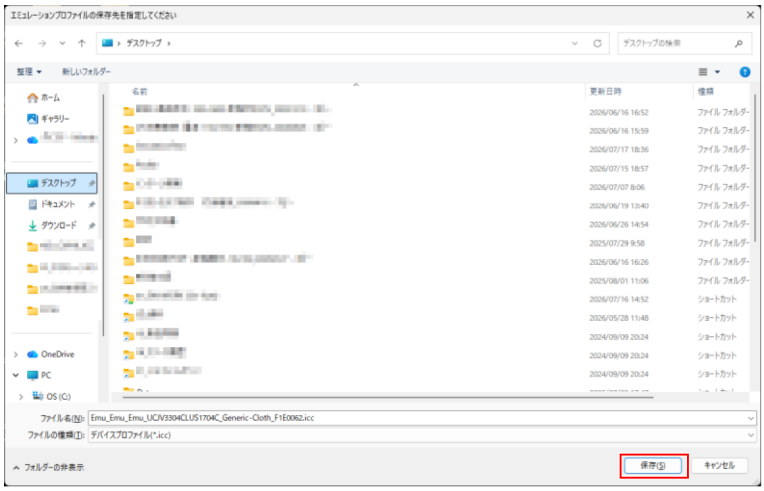
5 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。



6 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



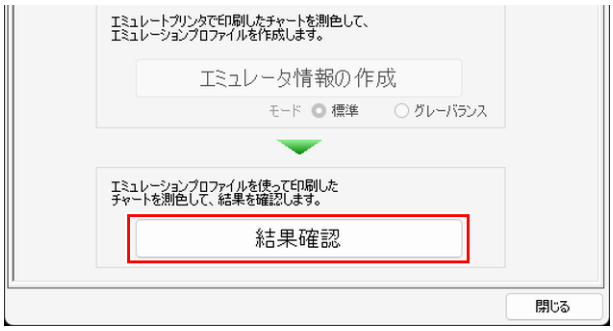
7 エミュレーションプロファイルの保存先フォルダーを選択し、[保存]をクリックします。



- 保存後、エミュレーションプロファイルは自動でRasterLink8にインストールされます。

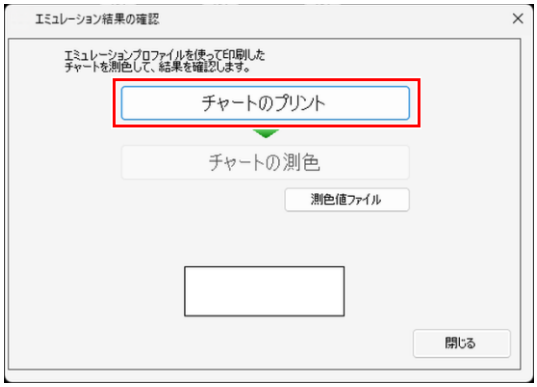
結果の確認

1 エミュレーションのメイン画面で[結果確認]をクリックします。



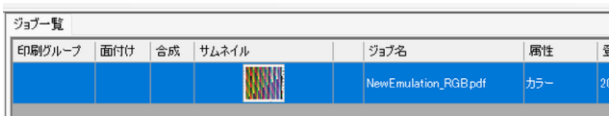
- [エミュレーション結果の確認]画面が表示されます。

2 [チャートのプリント]をクリックします。



- チャート画像ファイルがRasterLink8のジョブとして入力されます。

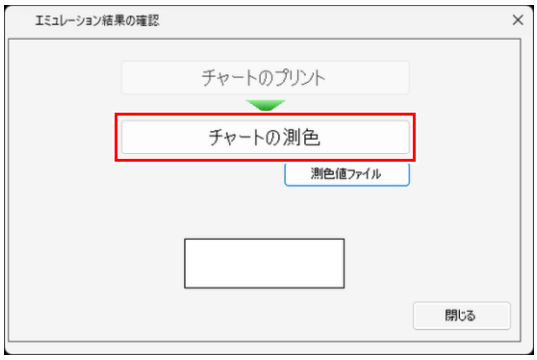
3 RasterLink8の[ ]（実行）アイコンを選択し、[開始]をクリックします。



- チャート画像が印刷されます。

- チャート画像は、回転やレイアウトを変更してから印刷できます。ただし、チャート画像をスケールすると測色できなくなるため、スケールしないでください。

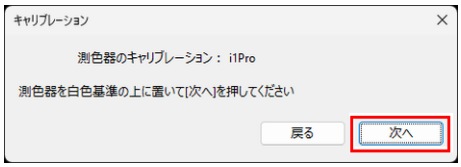
4 [チャートの測色]をクリックします。



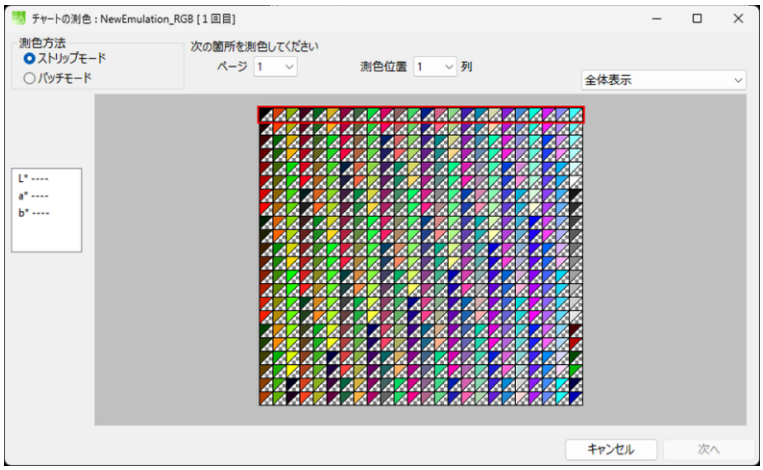
- [キャリブレーション]ダイアログが表示されます。

- [測色値ファイル]をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。前回測色したチャートをファイルとして保存している場合は、測色値ファイルを選択することで今回の測色をスキップできます。

5 画面の指示に従って測色器の準備を実施し、[次へ]をクリックします。

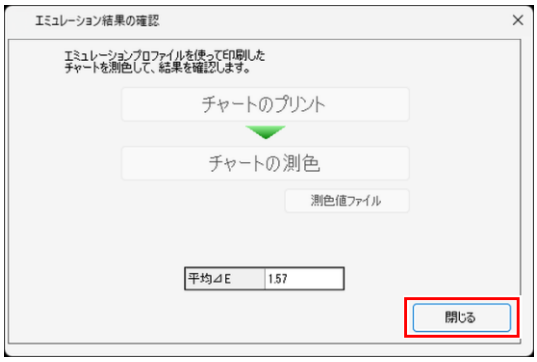


6 測色画面が表示されるので、画面の指示に従って測色を実施します。



- ターゲットとの色差の情報が画面に表示されます。

7 色差を確認し、[閉じる]をクリックします。



3.5 RasterLink8での使用

作成したエミュレーションプロファイルをRasterLink8で使用する手順を説明します。



- 作成したエミュレーションプロファイルは、RasterLink8に自動でインストールされます。

エミュレーションプロファイルを選択する

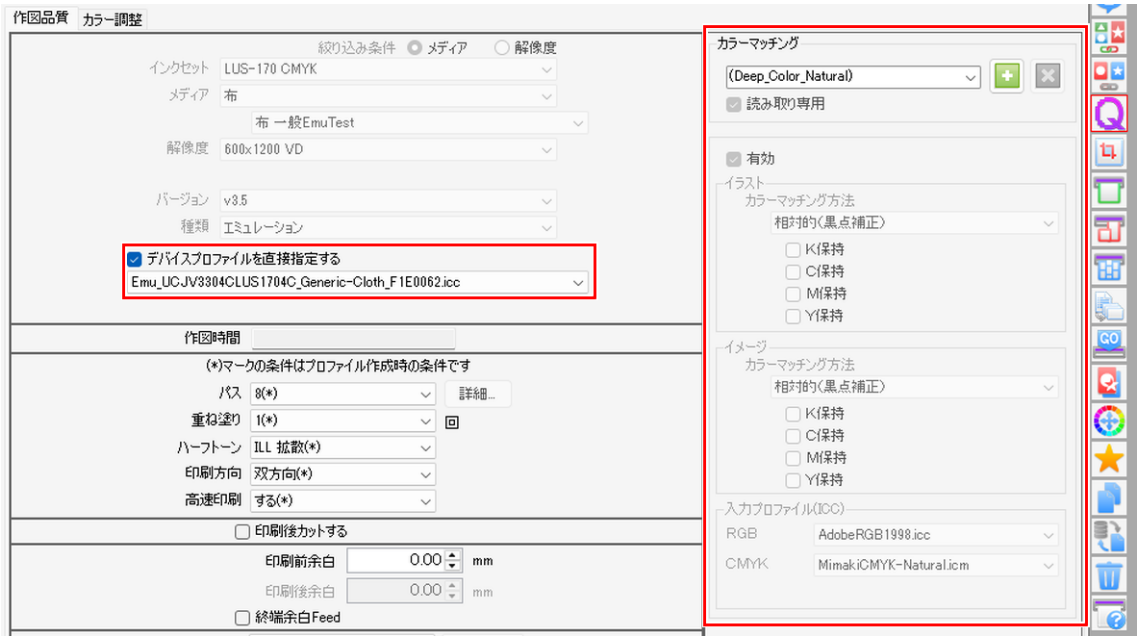
RasterLink8の[印刷条件]画面で、使用するエミュレーションプロファイルを選択します。

1 **RasterLink8でジョブを選択し、[印刷条件]画面を表示します。**

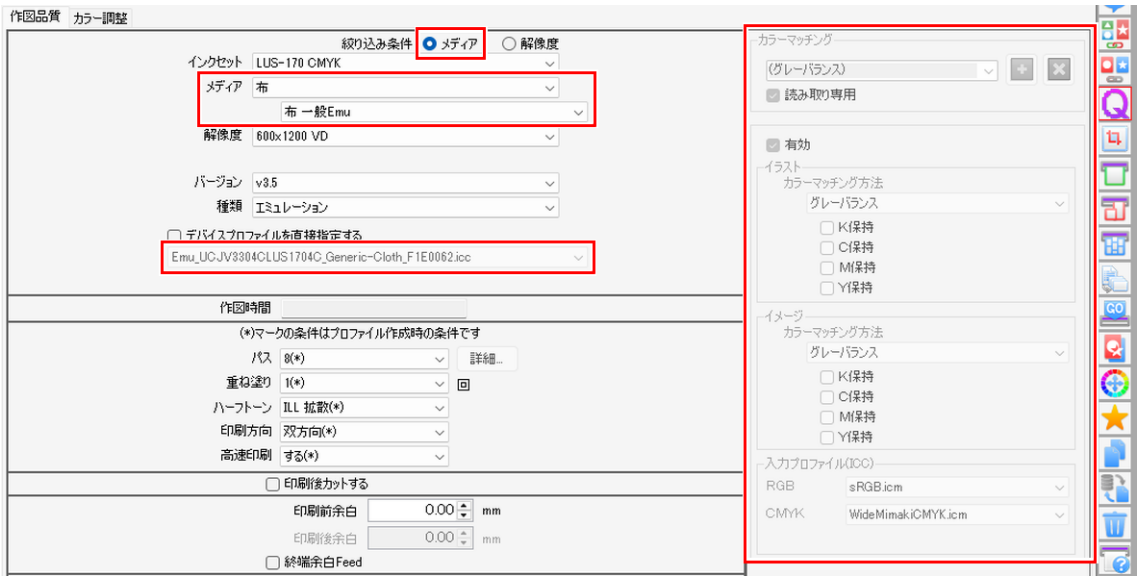
- [印刷条件]画面が表示されます。

2 エミュレーションプロファイルを選択します。

- [デバイスプロファイルを直接指定する]チェックボックスをオンにして、エミュレーションプロファイルを直接指定します。



- または、メディア名からエミュレーションプロファイルを絞り込みます。



重要！

- エミュレーションプロファイルを選択した場合、[カラーマッチング]は選択できません。[カラーマッチング]の設定項目はグレーアウトされます。

第 4 章　困ったときは



この章では...

トラブルが起きたときの解消方法や、やり方がわからないときの操作方法などを説明します。

Q&A.....44
基本..... 44
MimakiProfileMaster3（MPM3）との違い. 44
こんなときは.....46
チャート画像の測色中に測色エラーが多く発生する/エミュレーション後の色差が行う前よりも大きい 46
メッセージの対処方法 47

4.1 Q&A

よくある質問と回答を記載しています。

基本

● エミュレーションプロファイルに対してキャリブレーションできますか？

できます。

● 他のPCにエミュレーションデータを移行できますか？

ジョブのバックアップ機能を用いることで移行できます。

1 ジョブを選択、移行したいエミュレーションデータが設定されているデバイスプロファイルを選択します。

2 ジョブをバックアップします(詳細な手順についてはRasterLink8のリファレンスガイドをご覧ください)



- バックアップファイルには、指定されたデバイスプロファイルに対するエミュレーションデータが格納されています。

3 移行先のPCのRasterLink8にてバックアップファイルをリストアします。

重要!

- すでに移行先のプリンターとデバイスプロファイルに対して基準色、エミュレーションデータが作成されている場合、リストア時にこれらの情報を上書きします。

MimakiProfileMaster3（MPM3）との違い

本機能とは別に、RasterLinkシリーズでは、MimakiProfileMaster3(MPM3)を用いたエミュレーション機能を提供しています。

● MPM3のエミュレーション機能との違いはありますか？

本ツールとMPM3を用いたエミュレーションの違いは以下の内容となります。

	MPM3	RasterLink8
エミュレーションデータの保存先	ターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイル内に保存	RasterLink8のシステムにデバイスプロファイルとは別に保存
エミュレーションデータ作成後のRasterLinkへの適用方法	ターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイルを手動でインストール	手動インストール不要（エミュレーションプロファイル作成時に自動でインストール）
ジョブ適用方法	印刷条件画面でターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイルを選択	印刷条件画面でエミュレーションプロファイルを選択
性能	グレーバランスモード 非対応 RGB画像 非対応	グレーバランスモード対応 RGB画像対応

● MPM3にてエミュレーションを行っていましたが、作業をRasterLink8に移行させることはできますか？

MPM3でエミュレーションデータを作成していた場合、引き続きMPM3をご使用ください。

4.2 こんなときは

チャート画像の測色中に測色エラーが多く発生する/エミュレーション後の色差が行う前よりも大きい

チャート画像をエラーなく正確に測色するために、以下の内容に注意してください。

● ノズル抜けや汚れなどがないか確認する

ノズル抜けや汚れがある場合、原因を解消後、再度チャートをプリントしてください。

● 印字面のべたつきを除去する

印刷面の乾燥が不十分でべたついていると、測色器が引っ掛かるため、エラーや不正な測色値になることがあります。

十分に乾燥させるなどしてべたつきを除去してください。

● お気に入りの設定を確認する

お気に入りで以下の設定を間違えていないか確認してください。

- UV機をお使いの場合、[版生成]機能で、ホワイト版の自動合成を有効にしているとき、“画像全体”になっていますか？

● チャートプリント時の設定を確認する

- 転写や透明メディアで印字面と反対方向から見る場合、[ミラー]を”ON”にしていますか？

● 最終成果物と同じ後工程を行う

転写の場合、転写紙にプリントされたものではなく、転写後、転写したものを測色してください。

テキスタイルの場合、後処理(熱処理、洗いなど)を行ったものを測色してください。

4.3 メッセージの対処方法

メッセージ	操作/原因	対処方法
測色器の設定を行ってください。	RasterLink8メニューの[ツール] - [エミュレーション]を選択した。	測色器が選択されていません。測色器を選択してください。☞「測色器の設定」（P. 12）

RasterLink8　エミュレーションツールガイド

2026年11月

発行者　株式会社ミマキエンジニアリング
発行所　株式会社ミマキエンジニアリング
〒389-0512
長野県東御市滋野乙2182-3

D204022-11-02112026



HK

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.2026